

山南中だより 3月号

令和 6年3月19日発行
丹波市立山南中学校
丹波市山南町谷川 1348
TEL: 88-5730



学校教育目標

地域に誇りを持ち 豊かな人生を切り拓く生徒の育成
～ふるさと山南で育む つなぐ・ひろげる・つくりだす力～

令和5年度を振り返って



いよいよ1年間の締めくくりの時期を迎えました。3月22日の修了式をもって、今年度の教育活動を終えることとなります。統合に向けて準備をしてきたとはいえ、いざ統合してみると手探りで進めなければならないことも多くありました。生徒も保護者のみなさまも教職員も期待と不安を抱えながらの1年間でしたが、何とか統合1年目の終わりを迎えようとしています。

統合ということで、初めてのバス通学、新校舎での初めての行事、全学年の生徒が新しい環境の中で、新しい友達と学校生活をスタートすることになりましたが、生徒たちはしっかり学び、行事を盛り上げ、部活動でも素晴らしい活躍ぶりでした。また、教職員にとっては、生徒たちの頑張りに助けられながら過ごした激動の1年でした。至らぬ点もあったと思いますが、力を出し合いながら何とか教育活動を進めてまいりました。この1年間で見つかった課題については、しっかりと分析し、よりよい学校となるように次年度の改善につなげてまいります。



この1年間、温かい励ましやご協力をいただきました保護者の皆様、地域の皆様、関係機関の方々に、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。また、今後ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

新生徒会本部による募金活動

1月1日に発生した能登半島地震で被災された方々のために「何か自分たちにできることはないか」を考え、2月6日(火)～2月13日(火)までの期間、募金活動を行いました。多くの方々の協力により、

46,035円を集めることができました。

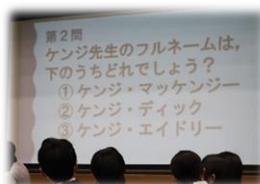
集まった義援金は、山南支所・丹波市障がい福祉課を通して被災地へ送ってもらいました。ご協力ありがとうございました。



3年生の先輩に感謝を込めて ～3年生を送る会～

3月13日（水）5、6校時は、生徒会本部役員が企画・運営し、3年生を送る会を開催しました。第1部の『クイズ！！山南王に俺はなる！！』では、山南中学校にちなんだ問題やユーモアを凝らしたクイズが出題され、班別に協力して回答しながらクラス対抗で競い合い、楽しく盛り上がりました。第2部の『山南トレジャー～探せるもんなら探してみな！！』では、校内に隠された宝物を班で協力しながら探し出しました。そして、第3部の『マイ☆フォーエバー☆メモリー』では、懐かしい先生からのメッセージや思い出のスライドが上映され、これまでの中学校生活を懐かしく振り返りました。どの企画もこれまでにないような楽しいものばかりで、これまでお世話になった3年生に感謝の気持ちを表しながら、全校生徒で思い出に残る楽しい時間を過ごしました。

生徒会本部役員のみなさんは、時間がない中、アイデアいっぱい楽しい企画を考え、準備を進めてきました。当日の運営や司会進行も含め、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました！！



第1回 卒業証書授与式

3月15日（金）、山南中学校第1回卒業証書授与式を挙行了しました。晴れ渡る空の下、3年生84人が初めての卒業生として、爽やかに新山南中学校を巣立っていきました。この3年生は、統合を見据えて入学時からブレザー型の新しい制服を着用し、旧山南中と和田中で1年生の時から生徒同士で統合に向けた話し合いを続けてきた学年でした。令和5年4月に統合してから、本当にあつという間の1年でしたが、3年生は最高学年として学校を大いに盛り上げるとともに、新しい中学校の土台をしっかりと築いてくれました。4月からはそれぞれが新たな進学先へ進みますが、これからも感謝の気持ちを忘れず、自分が選んだ道で自分らしく輝くことを願っています。これからもみなさんのことを応援しています。卒業おめでとう！！



「山南中だより3月号 Web版」には、卒業式の「在校生送辞」と「卒業生答辞」の全文を掲載しています。山南中学校のHPまたはこちらのQRコードからご覧ください。



在校生送辞 ～第1回 卒業証書授与式～

冬の冷たい風もいつの間にか和らぎ、優しく包み込むような温かい春の訪れを感じさせる季節となりました。本日、この佳き日に山南中学校卒業を迎えられた3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

皆さんが入学された頃、コロナの流行で学校生活には多くの制約がありました。しかし、その中で山南・和田中学校の統合のため、生徒同士の話し合いを続けてこられました。

皆さんは私たちの先輩として、生徒会活動や部活動等で、優しく接し、私たち1・2年生を熱心にリードしてくださいました。思い返してみれば、そんな日々が懐かしく、走馬灯のように流れていきます。

私たちは先輩から多くのことを学ばせていただきました。最も印象に残っているのは、何事にも全力で取り組み、下を向かずに進み続けていく姿です。9月に行われた体育祭では、準備から全力で取り組んでおられ、その姿に心動かされました。先輩方のように自分達も頑張ろうという気持ちを抱きました。本番では、どのブロックも一致団結し、最後のリレーの応援は、この山南中学校を震わせるような熱のこもった応援でした。その応援に応えるように、カー杯走る3年生はとてまかっよく、体育祭を締めくくるのにふさわしいと感じました。

それから、文化祭での合唱。1学年差とは思えないほど美しい歌声が体育館内に響き渡り、多くの人に感動を与えました。その歌声は、今でも心に残っています。そして劇では、役になりきって演技をされた役者、細かいところまで工夫された道具、音響、照明、一人一人が主演となり、素晴らしい劇を創りあげる団結力を感じました。その団結力を、これからの山南中学校生徒にも受け継いでいきたいと思います。

和田中学校と山南中学校が統合して間もない頃、新しいことばかりで分からなかった私たちを、先頭に立って引っ張ってくださったその姿は、この山南中学校を明るく照らす光のようでした。今度は私たちがそんな存在となり、先輩方が築いてくださった土台を基に、仲間たちと一緒に、更に素晴らしいものに進化させていきたいと思います。

最後になりましたが、今日まで統合後の新しい山南中学校を築いてこられた3年生の皆さんなら、どんな困難にぶつかってもきっと乗り越えられると思います。これからの人生も希望をもって歩んでください。新たな一步を踏み出す先輩方の未来が、輝かしいものであることを心から願い、送辞といたします。

在校生代表 浅井 丈司

卒業生答辞 ～第1回 卒業証書授与式～

冷たい風の中、桜のつぼみも色づきはじめ、春の柔らかな陽ざしを感じられるようになりました。この良き日に、僕たち84人は丹波市立山南中学校を卒業します。

思い起こせば3年前、僕たちはこれから始まる中学校生活に希望と不安を胸に入学してきました。そのとき与えられた3年間という膨大な時間を僕たちは今、使い切ろうとしています。3年間を振り返り、僕たちの思いをこの別れの言葉に綴りました。僕たち84人の学校生活の記憶です。

3年前の入学式、先輩と一緒に登校し、ドキドキしながらぐった中学校の校門。学校までの長くて急な坂に驚き、そして自分たちとは違う制服を着ている先輩たちを見て、とても不安になったことを覚えています。

まだまだ、コロナに影響を受けた1年生。多くの行事が制限をされ、不自由なこともありました。でも、一人ひとりの前向きな心がそんな生活に光を差し込み、どんな状況の中でも楽しく過ごし、不自由さを感じなくなりました。

楽しみにしていた部活動。先輩たちとのしんどい練習も乗り越え、努力し続けている姿を見て、かっこいいと思うと同時に、自分も先輩のようになるんだと決意を新たにしました。初めての大会。先輩が直前までそばにいて、かけてくれた「頑張ってこいよ」の一言は、いまでも僕の心に残っています。初めての体育祭、文化祭、一つ一つの行事を通して少しずつ中学生らしくなっていました。

僕たちは入学した時から、統合する新しい中学校を引っ張っていく存在になる学年だ、と折りに触れ言われてきました。でも、まだこの時は、それがどんなに大変なことか、よく分かっていませんでした。そんな中で、統合に向けてルールをつくるための検討委員会が進み始めました。

後輩ができ、先輩と呼ばれるようになった2年生。うれしくて、誇らしくて、何だか照れくさい気持ちになりました。それと同時に「責任感」というものを強く感じた1年間でした。「先輩らしく」という思いの反面、現実思ったようにいかず、考えさせられる日々でした。

6月にあったトラやる・ウィーク。あいさつや返事をするといった、あたり前のことがきっちりできることは、本当に大切なだと気づかされました。事業所で活動する中で、自ら考え動くことが自分の成長にもつながったように思います。そして、改めて日々働いてくれている家族のありがたさや地域の方の温かさにも気づくことができました。

さらに、来年はいよいよ旧山南中と和田中が統合する年でもありました。1年生から進めてきた検討委員会でのルール作りも本格化しました。また、各校の生徒会役員同士も集まり話し合いを重ねました。自分たちがどんな学校を目指すのか、そのために必要なことは何かを本気で考えました。話し合いを重ねるごとに、統合への期待と本当に僕たちが引っ張っていけるのかという不安も感じていました。

よく2年生は、中だるみをする学年だと言われます。しかし、僕たちの2年生での経験は、いつか社会へ踏み出していくための大きな力となりました。

時の流れは速いもので、中学校生活最後の年となりました。新しい山南中学校1年目、そして僕たちにとって特別な1年。新しい校舎、新しい仲間、不安なことたくさんありましたが、みんなと過ごすうちにそんな不安もいつしか消えていきました。

新しい学校での最初の行事、修学旅行。胸を躍らせながら沖縄へと出発しました。沖縄に到着し、まず訪れたのは糸数豪。戦時中の多くの人の思いを暗闇から感じました。戦後78年の今を生きる僕たちは、「戦争を決してくり返してはいけない」、「未来に語り継いでいかななくてはならない」と強く思った瞬間でした。うるま市での民泊体験。僕たちの班は、海に連れて行ってもらいました。想像をはるかに超える美しさに驚きました。民泊のお父さん、お母さんはとても優しく、もうひとつの家族ができたような気がしました。たった1日なのに、離れるときは寂しかったことを覚えています。あっという間に過ぎていった3日間。この3日間で新しいクラスの仲間、そして3年生全体の絆が深まり、僕たちにとってかけがえのない最高の思い出になりました。

すべての行事が第1回となる今年、これから受け継がれていく山南中の伝統の土台を創ることが僕たちの使命でした。

第1回の体育祭では、赤ブロック、青ブロック、黄ブロック、それぞれがリーダーを中心に限られた時間の中、必死に練習に取り組みました。「RUN~青春を駆け抜けろ~」というスローガンのもと、幕を開けた体育祭。心ひとつに、一人ひとりが輝き、それぞれのブロックの「らしさ」が光る最高の体育祭となりました。

11月に行われた文化祭。コロナやインフルエンザの影響で、急遽当日のプログラムを変更せざるを得ない状況となりました。代役としてステージに立った人、役割が変更になった人、後日演劇を披露することになったクラス、大変だったけど、この3年生だからこそ乗り切り、ひとつの「アート」を創り上げることができたのだと思います。

大きな行事が一つ終わるたびに受験という現実の足音が大きくなっていきました。昼休みに学習室を使って勉強する人、小論文や面接練習をする人、それぞれが自分の進路に向かって進み始めていました。いやになって逃げ出したいときもありました。でも、今は頑張るしかない、自分を奮い立たせながら闘いました。

こうしていろんなことに頑張ってくれたのは、自分一人の力ではありません。振り返ると、本当にたくさんの人に支えられてきた3年間でした。どんな時も誰かが励まし、勇気づけてくれたからこそ今の僕たちがあるのです。

時に厳しく、時には優しく、僕たちのことを考えてくれた先生。休み時間の何気ない会話、笑いのある授業。僕たちは決して忘れません。

僕たち3年生に一生懸命ついてきてくれた在校生のみなさん。新しい伝統をつくっていくことは、みなさんの協力がなければできないことばかりでした。僕たちをずっと助けてくれてありがとう。次はみなさんの番です。自分を信じ、仲間を信じ、今年僕たちが作った土台に、みなさんらしい伝統を築いていってください。

そして、僕たちを今まで育ててくれた、お父さん、お母さん、家族には感謝しかありません。心配をかけたことや、ひどく当たったこともあったと思います。どんなときも優しく見守り、困った時はそっと手をさしのべ、支えてくれてありがとう。特に3年生になってからは家族の存在はいつも僕たちの心の支えでした。

そして、ともに支え合い、励まし合った友だち。不安な時、相談に乗ってくれた友だち。一緒に喜びも悲しみも分かち合った友だち。みんながいなかったら学校生活は楽しくなかった。朝、教室で飛び交うあいさつ。休み時間や給食の時間になると聞こえる笑い声。本当に大切なものはみんなと過ごした普段の学校生活の中にありました。4月から進むそれぞれの道で、辛いことにあうかもしれません。苦しくて立ち止まることもあるでしょう。でも、僕たちの心の中には、この山南中学校の仲間が、そして思い出があります。仲間との思い出を胸に、夢に向かって歩んでいきます。

卒業生代表 善明 翔也
前川 暉翔